

第三節 明治三十六年

明治三十六年東京美術學校年報

甲 款

概況

明治三十六年七月三日卒業證書授與式ヲ行ヒ卒業製作品ヲ陳列シテ來賓ノ觀覽ニ供セリ

明治三十六年十一月三日參考ノ為メ教室ノ一部ニ於テ繪畫彫刻ノ展會覽ヲ開キ併セテ校外有志者ノ觀覽ヲ許シタリ

本校入學者中俊秀ヲ拔擢スル目的ヲ以テ四月ヨリ六月迄中學校卒業生ニ假入學ヲ許シテ實技ノミヲ學習セシメ其結果ニ依リテ入學セシメタルハ例年ノ如クニシテ成績又善良ナルハ喜フベキコトナリトス

規程

本年度内ニ於テハ本校規則又ハ内規等ノ改正(解説)創定シタルモノナシ

設備

〔明治三十五年度ノ報告末尾「從來ノ建物中教授上不便ナルタメ移築シタルモノ一棟アリ」を削除した分と同文につき省略。〕

職員

教授助教授書記ハ定員ニ滿タズ 目下ノ費額ニ於テハ之ヲ充タスニ足ラサレハナリ 而シテ今其人員ヲ昨年度末ニ比スレハ教授ニ一人ヲ増シ助教授ニ一人ヲ減シタリ 囑託講師ニアリテ四人ヲ増

シタルハ學科ノ増加ニ伴ヒテ不足ヲ補ヒタルナリ 此他ハ教務雇事務雇各一人ヲ増シ書記及副科囑託員ニハ増減ナシ

外國留學生ハ教授二人助教授一人アリ 之ヲ昨年度末ニ比スレハ教授ニ於テ一人ヲ増シ助教授助手ニ於テ各一人ヲ減セリ

休職員ハ教授一人助教授四人アリ 之ヲ昨年度末ニ比スレバ教授ニ於テ一人ヲ増セリ

生徒

生徒ノ操行及學力入學者ノ程度等ハ昨年ニ比シテ著シキ差違ヲ見サルモ健康ニ於テハ良好ナルヲ認ム 而シテ年齡ハ本科生最高二十八年五ヶ月(本年三月ヲ以テ計算 以下同シ) 最低十七年八月ヶ月撰科生最高三十年六月最低十七年七月ヶ月研究生最高三十二年十月ヶ月最低二十年三月ヶ月圖書講習科生最高三十四年十一月ヶ月最低二十三年四月ヶ月ナリ

生徒ノ入學轉科退學ハ之ヲ前年度ニ比スレバ入學者ニ於テハ豫備ノ課程撰科トモ各五人ヲ減シ圖書講習科ハ一人ヲ減シ轉科ニ於テハ二人ヲ増シタリ 退學者ニ於テハ病氣退學ハ五人ヲ増シ家事係累退學モ亦十七人ヲ増シ死亡者ニ於テハ二人ヲ減シ除名ニ於テハ八人ヲ減セリ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スルニ豫備ノ課程ハ六人ヲ撰科ハ十一人ヲ研究科ハ十五人ヲ減シ日本畫ハ六人ヲ西洋畫科ハ十二人ヲ圖按科ハ五人ヲ彫刻科ハ八人ヲ彫金科ハ一人ヲ鑄金科ハ一人ヲ漆工科ハ八人ヲ圖書講習科ハ二人ヲ増シタリ 之ヲ差引スルニ畢竟十一人ノ増加ヲ見ルハ研究科ノ入學者少ナキト本科入學者ノ多キ為メニ撰科入學者ノ少キニ依レリ 本年度ノ卒業生ハ各本科生十四人各撰科生二十七人此合計四十一

人ニシテ昨年度ニ比スレバ十九人ヲ減セリ

生徒中學術品行共ニ優等ナルモノヲ撰ヒ明治廿六年九月ヨリ向一學年間に授業料ヲ免除シ特待生ヲ命シタルモノ十七人アリ

生徒中最モ勤勉ナルモノヲ撰ヒ之ヲ表彰セン為メ卒業証書授與式

場ニ於テ精勤証書ヲ與ヘタルモノ三十九名アリテ前年度ニ比スルニ三十名ノ多キヲ見ルハ喜フベキ現象ナリトス

實業學校教員養成規定ニ依リテ生徒ニ學資ヲ補給セラル、ハ昨年度ノ如ク計五人アリ明治三十七年七月卒業スヘキ生徒ヲシテ實地

ニ就キテ研究修學セシムル為メ三十六年九月末ヨリ十月初旬ニ至ル迄十七日ヲ以テ囑託教員一人ヲシテ生徒ヲ引率セシメ

京都奈良ニ出張ヲ命シタルコト前年ニ同シ

本校生徒ハ皆自費通學ナルヲ以テ寄宿生ニ関スル事項ノ申報スベキモノナシ

將來施設上必要ト認ムル件

本項ニ於テ申請スルモノハ兩三年来開陳シテ御詮考ヲ須ツモノナレドモ留學生ノ毎年一二名ヲ派遣セラル、ノ外末々實施セラレズ

甚遺憾トスル處ナリ 速ニ施設セラレンコト切望ニ堪ヘサルナリ 其要領ヲ記セバ左ノ如シ

〔以下、外国留學生派遣、外国人教師招聘、建築科新設、製版科新設、

図画師範科新設、美術工芸科応用化学教室新設、参考品陳列館および図

書館、奈良研究所・生徒成績品陳列室の新設、校舍改築、講義室増築、

雨天体操場新設、教授・助教補充、図書標本費・學生費増額等の諸要

請については明治三十五年度の報告とほぼ同文であるため省略。〕

雑件

生徒ノ實驗ノ資ニ供スル為メ諸向ノ依囑ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重ナルモノヲ舉クレバ左ノ如シ

依囑製作品一覽

品名	數量	受託年度	竣工未竣工	依託者
日比谷公園鶴噴水器	一	前年度	竣工	東京市役所水道部
鑄銅虎置場	一	同	同	福岡縣三池炭鑛
日比谷公園アーク電燈柱	一〇	同	同	黑田恒馬
住吉神社扁額	一	同	同	東京市役所
鑄銅ライオン置物	一	同	同	北海道小樽
鑄鐵アーク燈柱	一	同	同	早見彌吉
収税官吏制服圖按	二	同	同	仙波太郎
揭示場圖按	二	同	同	東京電燈會社
石膏製人物	五	同	同	東京稅務監督局
第五回内國勸業博覽會賞牌	一〇	同	同	日本勸業銀行
木製畫帖形八曲小屏風	一	同	同	京都高等工藝學校
	一	同	同	第五回内國博覽會事務局
	一	同	同	日本銀行

解説

1 内規等の改正（各科授業要旨の改正）

内規に属する「各科授業要旨」（187頁参照）にはこの明治三十六年に改正が加えられ、日本画科と西洋画科の分が大幅に修正されて次のようになった。